

経済・金融 フラッシュ

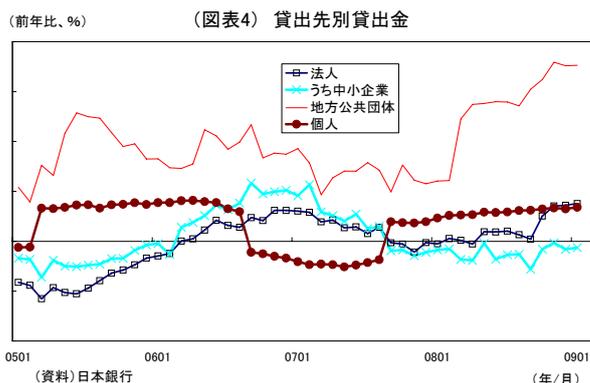
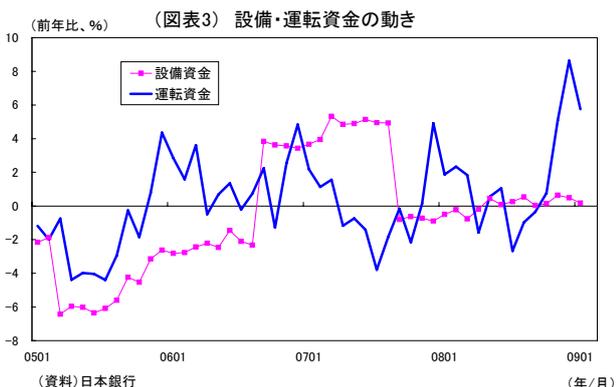
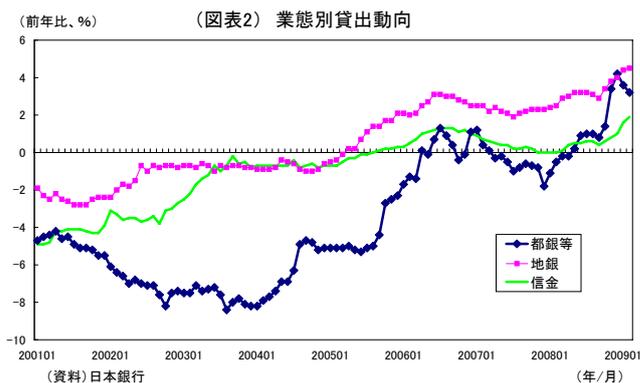
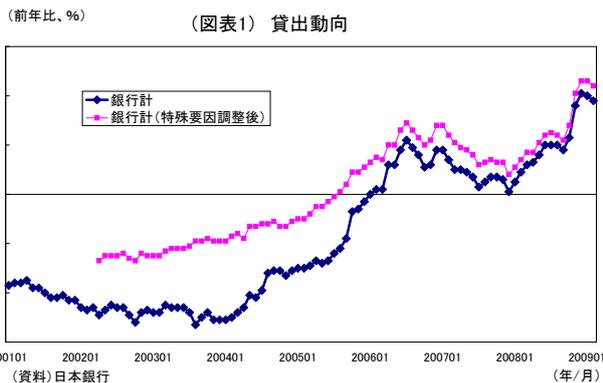
2月マネー関連： 2月の貸出残高は伸びが一服

経済調査部門 主任研究員 矢嶋 康次
TEL:03-3512-1837 E-mail: yyajima@nli-research.co.jp

1. 貸出動向：伸びが一服

貸出・資金吸収動向等によると、2月の総貸出(平残、銀行計)は前年比3.8%と、2ヶ月連続で縮小した。CP市場の回復、運転資金需要の低下などが影響しているようだ。

業態別では都銀が伸び率を低下させているが、地銀は緊急保証制度による中小企業向け・地方公共団体向けで貸出を伸ばしている(図表1~4)。

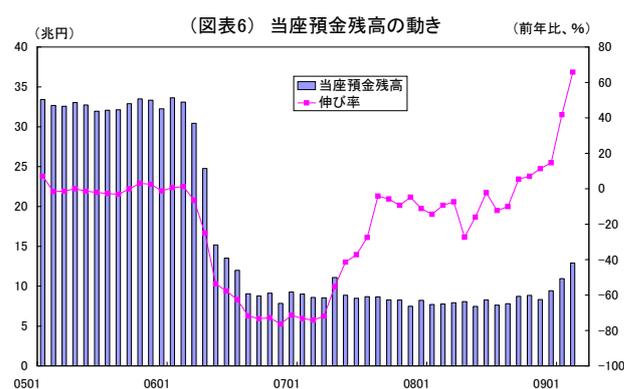
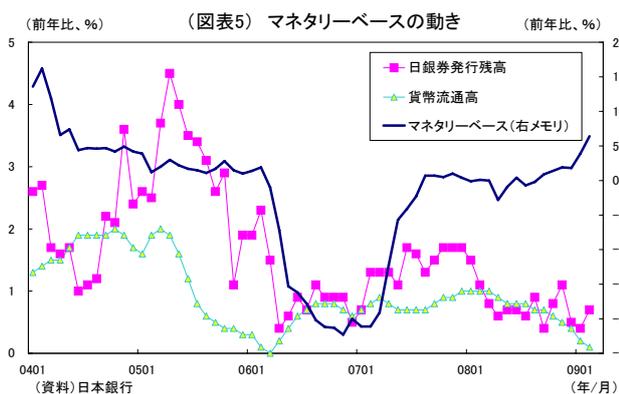


2. マネタリーベース：当座預金残高は前年比65.8%の伸び

2月のマネタリーベースは、前年同期比6.4%増(6カ月連続で増加)した。2004年5月(同7.4%)以来の高い伸びを記録している(図表5)。

日銀は金融市場の混乱で大規模資金供給を行っている。この影響で2月日銀当座預金残高の前年同

期比はプラス 65.8%と 6 ヶ月連続でプラスの伸びとなっていることが影響している(図表 6)。

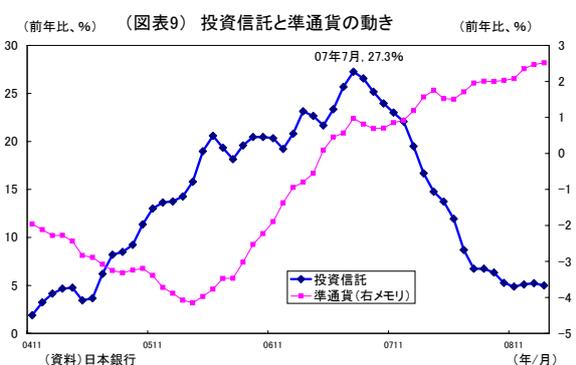
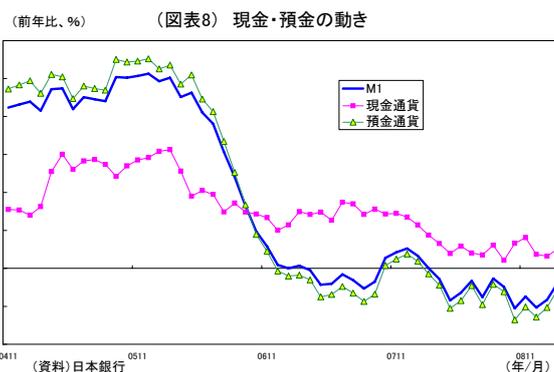
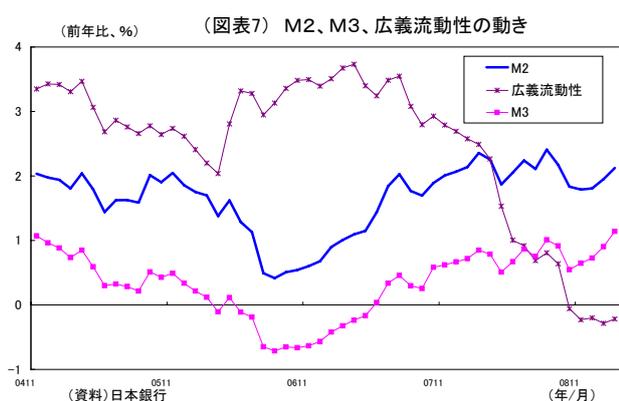


3. マネーストック: 広義流動性は5ヶ月連続のマイナス伸び率

広義流動性は5ヶ月連続で伸び率がマイナスとなった。

M2 (現金、国内銀行などの預金)、M3 (M2 にゆうちょ銀などすべての預金取扱金融機関の預貯金を含めた) は前月よりも伸び率が高まった(図表 7, 8)。

投信の伸び率は9ヶ月連続で一けた台の伸びにとどまっている。定期預金などの準通貨の伸びは続いており、リスク回避・安全資産へのシフトの動きは継続している(図表 9)。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。